

1. 調査報告概要表

作成日 平成 20年 8月 6日

【評価実施概要】

事業所番号	4770100560
法人名	医療法人 陽心会
事業所名	グループホーム たかまーみの家
所在地	〒902-0067 沖縄県那覇市安里3丁目1番47号 (電 話) 098-941-0080

評価機関名	沖縄県社会福祉協議会
所在地	沖縄県那覇市首里石嶺町4-373-1
訪問調査日	平成20年7月25日

【情報提供票より】(H20年 6月 23日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和・平成 15 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 8 人, 非常勤 0 人, 常勤換算	8 人

(2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り
	6 階建ての 階 ~ 2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000円		その他の経費(月額)	9,000円	
敷金	有(円)		(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)		有りの場合 償却の有無	有／無	
食材料費	朝食	300円	昼食	300円	
	夕食	300円	おやつ	0円	
	または1日当たり		900円		

(4)利用者の概要(6月23日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.7 歳	最低 81 歳	最高 93 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	大道中央病院 さわやか歯科
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、県都心部に立地し、6階建てビルの2階部分にあり、隣接して系列の有料老人ホームや老健施設、階下にデイサービスセンターなどがある。ホーム内の各居室や居間は、高齢者の特性に配慮して設計・設備が配置されており、機能的である。又、通風・彩光ともよく、明るく清潔でゆったりとした広がりのある生活空間が感じられる。利用者は職員と馴染んでおり、穏やかに暮らしている。又、ケアの一環として採り入れられているアートセラピー(造形美術)に積極的に取り組んでおり、楽しみごとの一つとなっている。母体の医療法人との連携により、緊急時や変化に迅速かつ適切に対応しており、利用者や家族に対する医療面での安全・安心に配慮している。食事面においても、利用者一人ひとりの機能を勘案し、各々にあった調理法を心がけている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題については、職員全員で話し合い、真摯に取り組んでいる。ホームに掲げられた運営理念の文字の大きさ、壁掛け時計、掲示物の高さ、ホームへの案内板の高さ、ケアサービス関連事項等が改善されている。パンフレットの作成や、他の改善事項については、改善の方向で前向きに検討されている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員全員が自己評価を行い(評価票を作成)会議で話し合い、管理者が事業所の自己評価としてまとめている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 定期的な運営会議では、事業所の活動状況や自己・外部評価について報告を行い、委員の皆さんからいろいろ意見・要望を聞いて、サービスの向上に活かしたり、運営上の課題として捉え、その改善に取り組んでいる。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 2週間に一度は電話連絡をしているほか、家族の面会も頻繁で、利用者の日々の暮らしや健康状態等、細やかに情報提供している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 利用者の高齢化・重度化がすすんだことで、地域自治会と交流する機会は少なくなっている。

2. 調査報告書

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	穏やかで温かい家族的な雰囲気作り、残存能力を活かし誇りある暮らしの支援、安全に健全にゆとりあるサービスの提供を目標に、独自の理念をつくりあげ、ホームの居間・事務室等に掲示しているが、地域密着型サービスとしての役割を目指した内容が盛り込まれていない。	○	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとしての視点や目標を加味した運営理念づくりが期待される。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員一人ひとりが理念を暗誦でき、又、時折り会議でも取り上げて確認している。全職員に理念が浸透しているため、日々のサービスの提供場面において理念が反映されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近くの自治会に加入していて、老人会行事などの招待を受けたりしているが、継続的な交流や関係は築かれていない。法人全体の祭りには、母体法人から地域への案内状を出している。また、近くの保育園児や県立看護大学実習生の来訪を受けている。	○	ビルの2階という施設の立地条件等も相俟って、地域との交流は容易ではないが、ともに暮らす地域住民の一員として自治会の活動や行事等の情報を集め、それに参加するとともに、地域からも来てもらうような機会をつくり、今後相互の交流に向けた取り組みを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回外部評価の改善課題については、職員で話し合っただけで改善されている。一部未改善事項については、改善に向けて前向きに検討している。今回の評価については、全職員で取り組み、管理者がまとめあげている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度会議が開かれている。会議の内容は、事業所の活動内容の報告が中心である。委員の皆さんと、地域との交流、災害対策の取り組みについて意見交換が行われている。会議には利用者の家族が2ヶ月交代で、委員として参加している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市が主催するイベントや研修には参加しているが、運営推進会議以外、市の担当者との情報交換の機会は殆どない。	○	ホームだけで解決できない課題等が発生することもあるし、日頃から指定権者である市の担当者との情報交換や意見交換、勉強会の講師を依頼する等社会資源の活用をはかり、サービスの質の向上に向けた取り組みが期待される。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	通常家族への報告は面会時やカンファレンス時に口頭で暮らしぶりや必要な報告をしている。また、2週間に一回のペースで電話連絡をしている。「ホーム便り」は発行していない。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会が多いので、意見はその都度聴取している。又、運営推進会議での家族の意見等は職員会議で伝達し、情報を共有し、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設1年後、職務上の適性を整えるため、4人の職員異動を行った。なるべく職員の異動や離職者を出さないように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県・市・社協等が開催する研修会に管理者をはじめ、職員にも段階的に必要な研修を受講させている。また、県グループホーム連絡会主催の研修会等にも積極的に参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員・同業者が交流するための沖縄県グループホーム連絡会に加盟し、勉強会や相互訪問を行っており、これらの活動を通してサービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の説明の際に職員が本人をミニデイ利用者として対応している間に家族に必要な説明を行い、ホームの雰囲気に両者に十分慣れてもらい、利用を始められるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔とった杵柄で縫い物や和服の畳みかたなどを正確に教えてもらったり、活躍していた当時のエピソードを傾聴することで職員自身も貴重な経験をうけとめることができている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族から本人のこれまでの生活ぶりやこれからの意向をアセスメントを通じて聴取し、これからの暮らし方に反映していくように支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	カンファレンスや面会は家族の意見を聞き、ケース会議で具体的に検討を行った上、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	通常3ヶ月に一回の見直しを行っているが、日常生活動作の低下等、変化の兆しが見られると、その都度見直しを行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	食欲の低下した利用者に特別メニューに変えたり、医療連携体制を活かして利用者や家族の負担となる入院を回避し、ホーム内での生活を継続することもある。正月やお盆等には、家族の要望を聞いて、自宅への送迎を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。かかりつけ医での医療が受けられるよう、家族と協力して支援している。現在ホームの協力医をかかりつけ医とする人が7人、その他が2人となっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアの指針を作成し、また職員会議で話し合っている。終末期等の希望を一部の利用者や家族と話し合う機会はあるが、すべての家族との話し合いはこれからである。	○	重度化や終末期に対応するためには、できるだけ早期に利用者家族をはじめ関係者全員が対応方針を共有するため話し合いの機会をもち、意志確認書を交わす等の取り組みを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	同じ行動を繰り返す利用者に対し、制するのではなく、見守り声をかけながら、注意をそらしている場面がみられた。様々な場面においても利用者のプライバシーを損ねることがないように配慮している。また、個人情報保護の遵守を徹底するため、職員・実習生からも誓約書を徴している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな一日のプログラムはあるが、本人のペースで生活してもらうようにしている。「沖縄のおどり」をビデオで流したり、リビングで職員と寛いだり、時には、散歩や買い物に出かけたり、できるだけ本人の希望に応えている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べることと食事づくりを大切なケアへの一環と考えて、昼食の下ごしらえ等を利用者の力に合わせて手伝ってもらっている。利用者と職員全員が同じテーブルを囲み、同じ物を一緒に食べている。飲み込みが悪い人や介助が必要な人には職員が寄り添い残存機能を促しながらサポートしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には1日おきだが、拒否する場合は無理強いせず、希望の日に入ってもらうなど柔軟に対応している。午後7時以降の入浴については勤務体制上無理があり行っていない。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一日の流れの中でその人に合った“できること”として食事の下ごしらえ、洗濯物干し・たたみ、テーブル拭き等を行うことで気持ちが晴れ、役割を持つ楽しさを感じてもらっている。そわそわして落ち着かない場合は、職員が散歩に連れて行ったりしている。月1回のアートセラピー(造形美術)には、集中して取り組んでおり、楽しみごとの一つとなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員と共に、近くのスーパーに食材の買出しや、栄町周辺の散歩に出かけたりしている。車イスの利用者が多いため、職員配置が難しく、日常的な外出の機会は少ない。	○	ホーム周辺の環境、人員体制など、外出には難しい環境ではあるが、体調にも配慮しつつ、ホーム内での生活だけにならないよう工夫して外出の機会を増やして欲しい。
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	開所当初から玄関に施錠していない。玄関へ向かおうとする気配がある時は、さりげなく声をかけたり、一緒に外出する等して落ち着きを取り戻すよう配慮している。鍵をかけることは抑制であることを職員は認識している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練は法人全体としては行われているが、ホームとしての訓練は実施していない。緊急脱出用のらせん状すべり台がホームの玄関近くに設置されている。また「緊急火災時の対応手順書」も作成されている。	○	法人全体の訓練のみにとどまらず、ホームとしても、消防等、関係機関に働きかけて避難・救出訓練を実施するとともに、職員の役割分担を明確にされるよう期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量、水分量をチェック表を用いて確認している。少ない人には補助食品や好物などで補っている。食べこぼしのある人には、その分、多めによそっている。一日の水分量は1500ccを目安に、その摂取状況を水分チェック表に記録し、水分の確保に注意を払っている。献立は、母体の栄養課長にアドバイスをもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間、台所、食堂、浴室、トイレ等の共用空間は明るくて清潔な感じがする。ビル2階にあることで、自然や季節を感じる機会は少ないが、物干し場のわずかなスペースに夏野菜や草花を育てている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、洋間と畳敷2通りが準備されている。家具、テレビ、ラジオ、家族の写真等、なじみの物品が持ち込まれている。レイアウトは利用者家族の意向を取り入れている。利用者に転倒などの問題がある場合は、タンス等の配置は家族と相談し安全対策を行っている。		